

## 中学校第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 情報に対応する力を身に付けよう  
教材名 『社会調査』のうそ 谷岡 一郎 (東京書籍 新しい国語2)

資料 朝日新聞 2007年7月13日  
朝日新聞 2007年7月20日  
スポーツ報知 2007年10月25日  
谷岡 一郎 『社会調査』のウソ 「リサーチリテラシーのすすめ」 文藝春秋

### 2 単元観

#### (1) 生徒観

本校は朝読書が定着しており、図書の貸し出しも2年生を中心に多い。しかし、読んでいる本の内容を見ると、小説が多く説明的文章を読むことに興味をもっている生徒は少ないと考えられる。本学級の国語教室においてもその傾向が見られ、事前のアンケートでは、説明的文章を読むことを苦手だと感じている生徒は全体の約3分の2を占めている。

説明的文章の学習としては、これまでに「考えるイルカ」において、論理の展開について学んでいる。そこでは、イルカの賢さを調べる実験を通して見られたイルカの思考過程を図に再構成することで、筆者の主張の根拠と論理の展開の仕方について、その妥当性を検討することを行い、書いてある内容を評価することを学んだ。

また、様々な場面において少人数やグループで話し合うことを授業に取り入れ、話し合いの成果を発表する学習活動をこれまでも行ってきた。

#### (2) 教材観

本単元では、本研究の中で「確かな読みの力」の実践的側面と位置付けている、「分析力」の育成を目標とする。社会調査に見られる「ズレ」を分析することで、分析の視点をもたせるとともに、分析力の基礎を身に付けさせたい。

本教材の原典には、「リサーチ・リテラシーのすすめ」という副題が付いており、リサーチ・リテラシーを身に付けることが原典の目指すねらいとなっている。(リサーチ・リテラシーとは、玉石混交の社会調査の中から、本当に価値あるものを見出すためのリテラシーと筆者は定義している。)アンケートなどの社会調査は、社会の実態や人々の意見を把握するために行われるが、その結果には必ず本来の姿からの「ズレ」が生じる。その中でも、「相関関係」を誤った「因果関係」でとらえてしまったことにより生じた「ズレ」が最も起こりやすく、その具体例「逆方向の因果関係」「隠れた変数による因果関係」「別の変数による因果関係」の3つを取り上げて説明している。そして、様々な社会調査の中から本当に価値あるものを見出すための力を身に付けることの重要性を主張している。このような力を身に付けることは、高度情報化社会の中で生きていく生徒にとって、必要条件と考える。本教材の内容理解を通して、身近な社会調査の実態に目を向け、それに対して自分なりの分析・考えを明確にもたせるようにしたい。

#### (3) 指導観

指導においては、身近な話題を例として取り上げることで、日ごろ目にしている情報をすべて受け身の立場で受け入れるのではなく、情報を批判的に見る視点を持たせたい。そのためには、単なる本文の理解にとどまることなく、生徒が、社会調査等から導き出される身近な情報に目を向け、その情報を批判的に見つめ、価値を見極めることを授業の中で実践したい。そこで、身近な社会調査を紹介し、それを本文の例を参考にしながら分析する活動を取り入れる。そして、その分析の結果を根拠とし、情報を得る際の立場について自分の考えをまとめさせ、情報に対応する力を身に付けさせることを目指したい。また、グループ活動を取り入れ、生徒同士が自分の考えを交流させることで自ら気づきや考えを深めさせたい。

### 3 単元の指導目標

社会調査を分析し、情報についての考えを深め、自分の意見をもたせる。

### 4 評価規準

- ア 社会調査に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】  
 イ 社会調査における「ズレ」を分析し、筆者の主張を理解している。 【読むこと】  
 ウ 筆者の主張に触れ、今後、情報とどう接していくかを考えている。 【読むこと】

### 5 指導計画（全4時間）

過程	学習内容及び学習活動	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1 情報を得るとき、自分がどのような立場であるかを意識する。 2 社会調査に「ズレ」があることをとらえた上で、学習の見通しをもつ。	1	(1)受け身の立場で情報を得ていることに気付かせるために、身近な話題を取り上げる。 (2)単元のめあてを知らせ、学習のゴールを示す。	ア 学習活動の見通しをもち、社会調査について興味をもっている。【観察】
展開	3 社会調査で起こりがちな「ズレ」の原因を知る。 4 社会調査を行う側になり、「ズレ」を縮小するための改善案を考える。（分析） 【ワークシート①】	1	(3)「相関関係」と「因果関係」について、本文中の図を使って説明する。 (4)分析の視点を示す。 ・調査の目的 ・調査の対象 ・調査の内容	イ 分析の視点を基に、「ズレ」を分析している。【ワークシート】
開	5 社会調査の分析結果を発表する。 6 筆者の主張を読み取る。	1	(5)分析において最も重要な柱となる視点も挙げさせる。 (6)社会調査などから情報を得る際、必要な能力として筆者が挙げているものを整理させる。	
終末	7 他の社会調査の「ズレ」について分析する。 【ワークシート②】 8 筆者の主張に触れ、これから情報にどう接していくかを考える。 【ワークシート③】	1	(7)分析の際に、違う視点で情報の見直しをさせ、学習としての広がりもたせる。 (8)筆者の主張に触れながら、書く活動を通して、自分の考えを構築させる。	ウ 根拠を示して自分の考えを述べている。【ワークシート】